

# スマートホーム普及

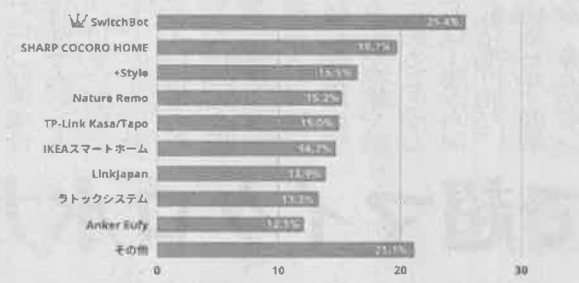
スマートホームの普及率(所有割合)は中国92%、アメリカ81%に比べ日本は13%と低いままだ。各種の調査から我が国の現状と課題を探る。また既存賃貸物件を中心に低価格でスマートホーム化するアクセラポを取材した。同サービスは、赤外線リモコンさえ使えばスマート化が可能という敷居の低さで23年1月時点で250社以上、2万1000戸に導入され、近年大きく伸びている。



スペース・コアが導入されたフェリス北堀江。赤外線リモコンベースのため既存の家電や住宅設備機器でスマート化できる

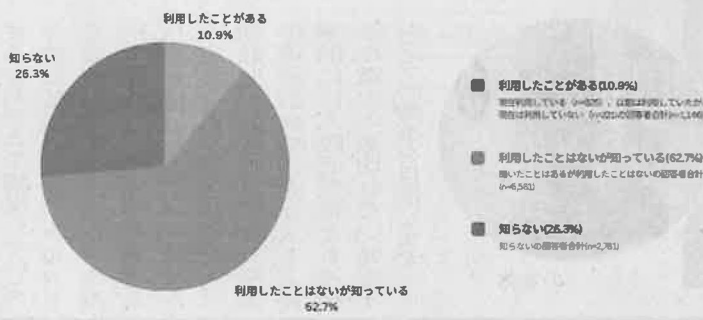
## 中国92% 日本13%

### 利用しているスマートホーム家電のブランド



【調査概要】  
・対象者：n=782(スクリーニング調査n=10,488、内「現在スマートホーム家電を利用している方」を対象)  
・アンケート集計期間：2023年1月6日～2023年1月24日  
・調査機関：BENRI LIFE (インターネット調査・株式会社ジャストシステム「Fastask」)

### スマートホーム家電の認知率・利用経験



【調査概要】  
・対象者：n=10,488  
・アンケート集計期間：2023年1月6日～2023年1月24日  
・調査機関：BENRI LIFE (インターネット調査・株式会社ジャストシステム「Fastask」)

## 赤外線リモコンで連携の低ハードルサービスも

スマートホーム家電の認知率は、2023年時点で73.6%に達しており、一定の認知度があることがBENRI LIFE (https://www.benrilife.com) が10代から60代の男女1万0488人に対して行った調査でわかった。半面、実際の利用経験がある人は、10.9%に留まっている。スマートスピーカーを除くスマートホーム家電の利用率をブランド別に調査すると「SwitchBot」の利用率が25.4%と頭ひとつ抜けてトップに。次いで、SHARPのCOCORO HOME (19.7%)、+Style (16.9%)、Nature Remo (15.2%)となつた。スマートホーム分野は、従来、スタートアップや中小企業による展開が目立っていたが、大手電機メーカーの参入も増えてきている。RoomclipとLIVINGTECH協会の共同レポートでも前出調査同様、普及率が低い結果になっている。スマート家電・スマートホームの普及率(所有割合)は中国92%、アメリカ81%に比べ日本は13% (LIVINGTECH協会実施の2023年のネットリサーチ) と低調なままだ。

日本と海外で大きく差が開いたのは「セキュリティを高める」「経済メリットがある」「環境にやさしい」といった項目だった。「価格の高い贅沢品」「スマホにつながるからこそセキュリティに不安」と感じる日本と、普及が進んでいる国々には認識に大きなギャップがあった。

独スタテイスタの調査によると「スマートホームに関する印象」では、普及率の高い国ほど「環境にやさしい住まいにできる」「エネルギーマネジメントに有効性がある」と回答しており、アメリカ、中国、ノルウェーの平均は日本の5倍以上にも上る。

**自社製品囲い込み**  
他社製品との連携に難関。アクセラポのスマートホームサービス「SpaceCore (スペース・コア)」が導入されたフェリス北堀江の内覧会が5月23日に行われた。

同社の上野山雄紀氏は「家電メーカーは自社製品同士との接続はスムーズだが、他社製品と連携できないように困り込んでいく傾向があり横軸につながるにくい。当システムは、赤外線のリモコンが使えるものなら動かせるという低いハードルに設定してスマート化するのが特徴。赤外線なら既存の家電や住宅設備機器とつなげられるので導入コストが低い。賃貸物件での運用実績が多い」という。同物件で導入費は工事費込みで約20万円。スマートルーム化で家賃を5千円程度アップできたとし、3年ほどで回収できる計算だ。

同部屋のオーナーである三島産業の三島耕平代表取締役は「賃貸物件は年数がたつと家賃を下げるしかない。スマートルーム化で差別化して賃料と入居率のアップを目指すのはある。しかし「スマートルームは実際に使わないと便利さがわからない」ので、一度使ってもらって、入居者に長く住んでもらえるようにした」とした。

「第16回関西エクステリアフェア2023」が6月8、9日にインテックス大阪1・2号館で開催され1万7240人が訪れた。同展でも「持続可能な社会」に向けた提案が多く見られた。一部をピックアップして紹介する。

### 太陽エコブロックス

「舗装用ブロックでCO<sub>2</sub>の排出量を減らす」そんなユニークな切り口で展示を行ったのが太陽エコブロックスだ。セメントを用いない「ゼロセメ」という新たな材料を使った舗装用ブロックを展示会初披露し「街づくりとエコを両立できる」とアピールした。

セメントはコンクリートの強度を上げるために大きく使われる。製造時のCO<sub>2</sub>の排出量が、セメントを粉末にして再利用することで強度を担保。セメントを使用する従来のブロックと比べ、製造時のCO<sub>2</sub>の排出量を約75%削減できる。CO<sub>2</sub>が生み出されるとも言われ、脱炭素社会の構築に向けて取り組むべき課題の一つとなっていた。

ゼロセメは、鉄を生産する際の副産物である高炉スラグを粉末にして再利用することで強度を担保。セメントを使用する従来のブロックと比べ、製造時のCO<sub>2</sub>の排出量を約75%削減できる。CO<sub>2</sub>が生み出されるとも言われ、脱炭素社会の構築に向けて取り組むべき課題の一つとなっていた。

### パナソニックハウジングソリューションズ

課題の強度面も「人が歩くぶんには問題ないレベル(曲げ強度3N/m以上)」といい、歩道や住宅の外構アプリなどにも使用できる。発売間もない新素材だが、担当者は「反響は上々。公共工事に使えそうだという声が多く寄せられた」と手ごたえを語った。

2009年に始まった再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)が、次々と満期の10年を迎えている。発電メインで導入された太陽電池や風力発電機、太陽電池パネルを積載したソーラーカーポートを出展。建築物の屋根+アルファの発電を最大限に抑えられる。担当者は「V2Hはうまく活用できれば一日の買電をゼロにできる。卒FITと電料料金の高騰によって我々のV2Hにも大きな注目が集まっており、EVの購入に合わせたV2Hシステムを導入する例が増えている」と話した。

### 四国化成工業

市場に出回るV2Hシステムの多くが単独型なのにに対し、同社のeneplatはV2Hスタンド、蓄電池、パワーステーション、太陽電池パネルを一体化したシステムとして出展した。

四国化成工業は太陽光パネルを積載したソーラーカーポートを出展。建築物の屋根+アルファの発電を最大限に抑えられる。担当者は「V2Hはうまく活用できれば一日の買電をゼロにできる。卒FITと電料料金の高騰によって我々のV2Hにも大きな注目が集まっており、EVの購入に合わせたV2Hシステムを導入する例が増えている」と話した。

## テリアフェア

「第16回関西エクステリアフェア2023」が6月8、9日にインテックス大阪1・2号館で開催され1万7240人が訪れた。同展でも「持続可能な社会」に向けた提案が多く見られた。一部をピックアップして紹介する。

課題の強度面も「人が歩くぶんには問題ないレベル(曲げ強度3N/m以上)」といい、歩道や住宅の外構アプリなどにも使用できる。発売間もない新素材だが、担当者は「反響は上々。公共工事に使えそうだという声が多く寄せられた」と手ごたえを語った。

市場に出回るV2Hシステムの多くが単独型なのにに対し、同社のeneplatはV2Hスタンド、蓄電池、パワーステーション、太陽電池パネルを一体化したシステムとして出展した。

「第16回関西エクステリアフェア2023」が6月8、9日にインテックス大阪1・2号館で開催され1万7240人が訪れた。同展でも「持続可能な社会」に向けた提案が多く見られた。一部をピックアップして紹介する。

新しい幸せを、わかすこと。



ノーリツは、おふろまるごと除菌へ。



場をお届けします